

お客様各位

カタログ等資料中の旧社名の扱いについて

2010年4月1日を以ってNECエレクトロニクス株式会社及び株式会社ルネサステクノロジが合併し、両社の全ての事業が当社に承継されております。従いまして、本資料中には旧社名での表記が残っておりますが、当社の資料として有効ですので、ご理解の程宜しくお願ひ申し上げます。

ルネサスエレクトロニクス ホームページ (<http://www.renesas.com>)

2010年4月1日

ルネサスエレクトロニクス株式会社

【発行】ルネサスエレクトロニクス株式会社 (<http://www.renesas.com>)

【問い合わせ先】 <http://japan.renesas.com/inquiry>

RENESAS TECHNICAL UPDATE

〒100-0004 東京都千代田区大手町 2-6-2 日本ビル
株式会社 ルネサス テクノロジ
問合せ窓口 E-mail: csc@renesas.com

製品分類	開発環境	発行番号	TN-EML-A122A/J	Rev.	第1版
題名	フラッシュメモリ書込み消去ライブラリ不具合に伴うWDT(ウォッチドックタイマ)の操作制限		情報分類	技術情報	
適用製品	H8S/2218F E10A エミュレータ(V 1.0.00 以降) 型名: HS2218KCM01H, HS2218KCI01H H8S/2378F E10A エミュレータ(V 1.01 以降) 型名: HS2378KCM01H, HS2378KCI01H H8S/2339F E10A エミュレータ(V 1.00 以降) 型名: HS2339KCM01H, HS2339KCI01H H8/3048F-ONE E10T エミュレータ(V 1.00 以降) 型名: HS3048BTCM01H, HS3048BTCI01H SH7047F E10A エミュレータ(V 1.00 以降) 型名: HS7047KCM01H, HS7047KCM02H, HS7047KCI01H, HS7047KCI02H SH7144F E10A エミュレータ(V1.00 以降) 型名: HS7144KCM01H, HS7144KCM02H, HS7144KCI01H, HS7144KCI02H	対象ロット等 適用製品欄 参照	関連資料 ・ H8S/2218 グループ、H8S/2212 グループ ハードウェアマニュアル (RJJ09B0054-0300H Rev.3.00) ・ H8S/2378 グループ、H8S/2378R グループ ハードウェアマニュアル (RJJ09B0094-0400H Rev.4.00) ・ H8S/2339 シリーズ、H8S/2338 シリーズ、 H8S/2329 シリーズ、H8S/2328 シリーズ、 H8S/2319 シリーズ、H8S/2318 シリーズ ハードウェアマニュアル (ADJ-602-192A 第2版) ・ H8/3048B グループ ハードウェアマニュアル (RJJ09B0138-0200H Rev.2.00) ・ SH2 SH7047 グループ ハードウェアマニュアル (RJJ09B0154-0200Z Rev.2.00) ・ SH7144 グループ、SH7145 グループ ハードウェアマニュアル (RJJ09B0026-0300Z Rev.3.00)		

E10A,E10Tエミュレータをご使用の場合、下記対象デバイスに対しての制限事項が適応されます。

【対象デバイス】

H8S/2218F , H8S/2212F , H8S/2319EF , H8S/2329EF , H8S/2339EF , H8S/2367F , H8S/2377F
 H8/3048F-ONE(H8/3048BF) , SH7047F , SH7144F , SH7145F

【現象】

E10A,E10Tエミュレータ接続時、フラッシュメモリ書込みを伴うRUN実行及びステップ実行ではWDT(ウォッチドックタイマ)のRSTCSRレジスタに不定値が書込まれる不具合があります。

【回避策】

WDT(ウォッチドックタイマ)を使用するユーザプログラムのデバッグを行う場合、下記の操作を行ってください。

デバッグ時の操作および制限

- ・ ユーザプログラムを"ResetGo"実行する前に一度"Step In"実行を行ってください。
- ・ 上記【現象】が発生した場合、I/OウィンドウにてRSTCSRレジスタの値を設定し直してください。
- ・ Break Condition(ハードウェアブレーク)、および強制ブレークをご使用願います。
- ・ Break point(ソフトウェアブレーク)は使用しないでください。

RSTCSRレジスタの書換え方法は各関連資料内にあるWDT(ウォッチドックタイマ)に関する章の使用上の注意事項を参照してください。

対象デバイスをご使用の場合、デバッグ後のチップで最終システムの確認を必ず行ってください。

以上